

## 道展80周年記念展の「のどんこシリーズ」から「 宙シリーズ」まで

著者	野崎 嘉男
雑誌名	生涯学習研究と実践 : 浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要
巻	10
ページ	9-14
発行年	2007
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1136/00002235/">http://id.nii.ac.jp/1136/00002235/</a>

## 制作ノート 道展80周年記念展の「のどちんこシリーズ」から「宙シリーズ」まで

野 崎 嘉 男

旧聞になるが、昨年、平成17年11月23日（水）から12月4日（日）まで、北海道立近代美術館において《三つのアニバーサリー公募展でたどる北海道アート》のうち、僕が所属している「道展」の企画展『道展80周年記念展：響きあう北と南―道展会員会友／南九州作家交流展―』が開催された。三つの公募展というのは1925年創立の「道展」、1945年創立の「全道展」、1956年創立の「新道展」である。「道展」はご承知の方も多いと思うが、地方の美術公募展としては全国でも最古の歴史を持つ美術団体として知られているし東京以北では最も大きい美術団体である。

この「道展」記念企画展の目的と内容は会員と会友全員が自己の作家歴で特に記念になった思い出の作品総計297点を一堂に展覧して、会員と会友個々の作品を通して北海道美術の特質やその推移を俯瞰するものである。加えて南九州の宮崎、熊本、鹿児島の子島の作家の作品51点も展覧して、日本の南北両端地域の風土性や表現の差異などを対比検証することも念頭においたユニークな構成のもの。会場は懐かしい作品をもう一度見たいと楽しみにしていた「道展」ファンで連日賑わった。

さて、僕は昭和48年（1973年）の第48回道展出展の当時シリーズで制作していた「のどちんこシリーズ」から「のどちんこ」(作品写真参照：昭和48年11月、札幌今井デパート展示)と題した50号Fの33年前の油彩作品を出展した。この作品はいろいろな意味で僕のその後の制作展開の転機となった記念すべきものである。自宅に梱包して大切に保管していたので、展示して見る状態では久しぶりの作品との対面となったが、作品からの主張が色褪せていなかったのが、とても嬉しかった。「のどちんこシリーズ」は昭和44年（1969年）から昭和50年（1975年）までの7年間にわたって取り組んだテーマで、僕から言うのも気が引けるが当時野崎というと「のどちんこ」の作家かと言われ評判になったシリーズものであった。同年の4月に道内の昭和2ケタ生まれの非写実系作家12人で、会期を連鎖してそれぞれ系統的に個展を繰り広げる新しいスタイルのグループ展《'73連鎖展12稜空間》(美術評論家吉田豪介氏構成)を開催して注目をあびた。同年8月には同じ12人のメンバーで1人1枚の版画作品を制作、合わせて12枚の版画作品集《プリントアート・オリジナル12稜空間》(畳紙式・B3判)150部を限定発行した。この版画集もグループ展同様大変好評を博し、この年の「北海道芸術新賞」を受賞、僕たちの制作活動に大きな弾みがついたのは言うまでもない。

さて、僕の「のどちんこシリーズ」の作品傾向については、上記の《プリントアート・オリジナル12稜空間》のパンフレット編集者吉田豪介氏の「〈12稜空間〉の作家たち、野崎嘉男」からの一文が僕の当時の造形思考を的確に表現しているので引用させていただく。『「ノドチン

コ」の連作を続けるこの作家の空間は、ゆらめく波形のオプティカル・イリュージョン（錯視）を主旋律としながら空虚なヒトガタをモザイクした、コメディ的オップ・アートと分類することができる。しかしこのコメディアンは陽気に声をはりあげたり、もの悲しいピエロの表情をみせたりはしない。画面の表情からは情感が排除され、感覚のたわむれとも呼べる洗練されたイリュージョンでおおわれているからである。野崎はこの個展で、壁面を不連続に連なる「ノドチンコ」の帯で封鎖しようとしている。断続する空間が観賞者の錯覚によって連続することはもちろん、観賞者の視点が、みることとみられることとの裏がえしの関係を体験できるような方法論で取り組んでいる。視点は外部の立場から内側の空間へくりこまれ、「ノドチンコ」のヒトガタの視線とからみあう。錯視のたわむれが、この位相空間でどんな戦慄と出会うか。そこに期待が集まろう』。

その後、僕の制作テーマは昭和50年（1975年）から昭和53年（1978年）までの「窓シリーズ」、昭和53年（1978）から昭和54年（1979年）までの「封シリーズ」、昭和54年（1979年）から昭和60年（1985年）までの「連シリーズ」、昭和60年（1985年）から平成2年（1990年）までの「対シリーズ」、平成2年（1990年）から平成9年（1997年）までの「印シリーズ」、平成9年（1997年）から平成16年（2004年）までの「記シリーズ」、そして現在の「宙シリーズ」へと推移してきた（80周年記念2005道展出品「宙シリーズ05-15」作品写真参照）。ふりかえって見ると表現スタイル、技法はさまざまに変化してきてきたが僕の空間追求の思考にぶれは全くない。この度の旧作「のどちんこ」の出展出合いを機にさらに空間追求の旅に加速をつけたいと考えているこの頃である。（2006, 7 記）

#### 引用文献

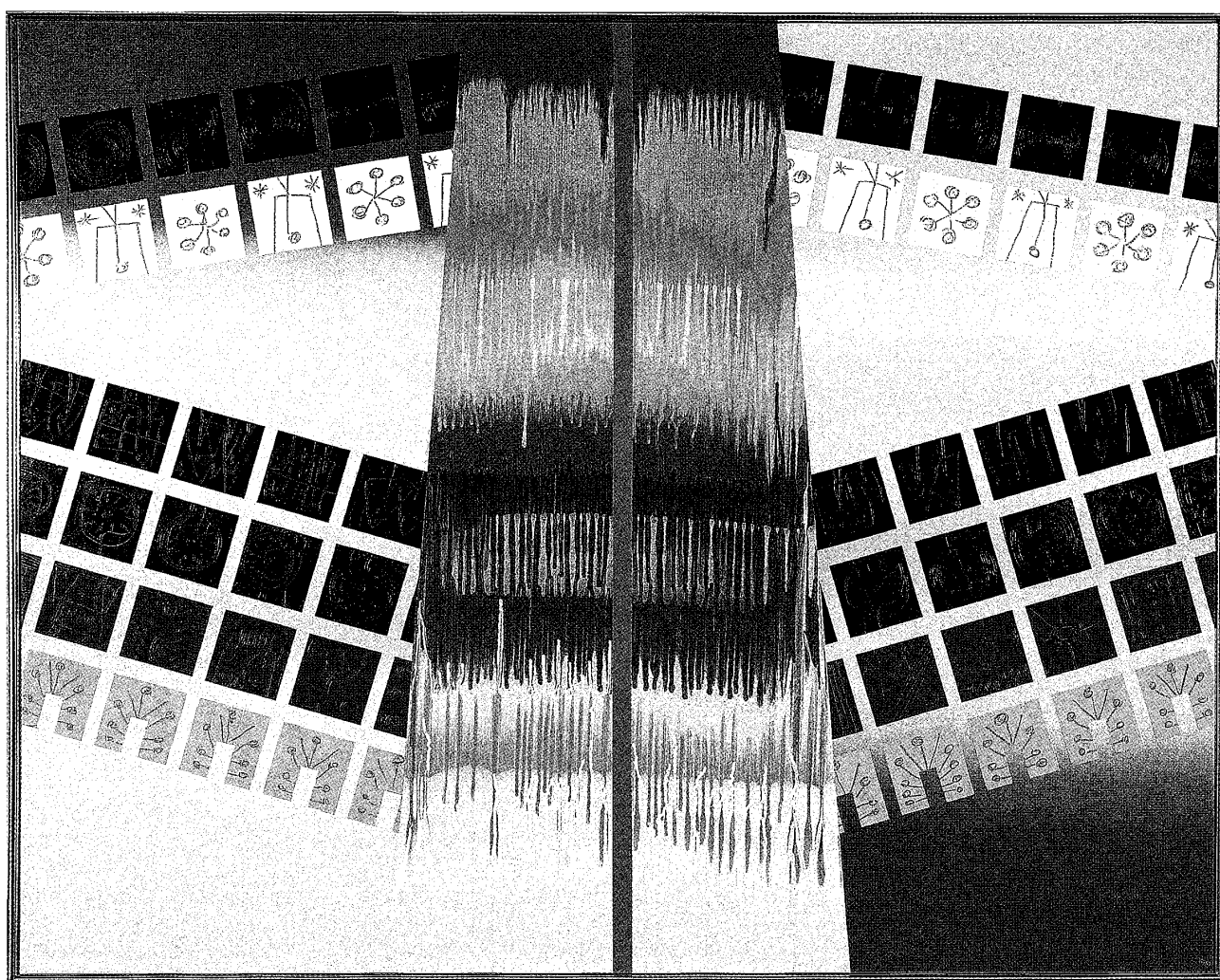
- 1) 吉田豪介：プリントアート・オリジナル12稜空間（版画集）パンフレット「プリントアート・オリジナル12稜空間、'73連鎖展〈12稜空間〉実行委員会, 9, 1973,

## 宙シリーズ 06-2

“Cyuu” Series, 06-2

野 崎 嘉 男

NOZAKI, Yoshio



130.6cm×162.0cm

制作 2006, 4

第36回グルッペ・ゼーエン展

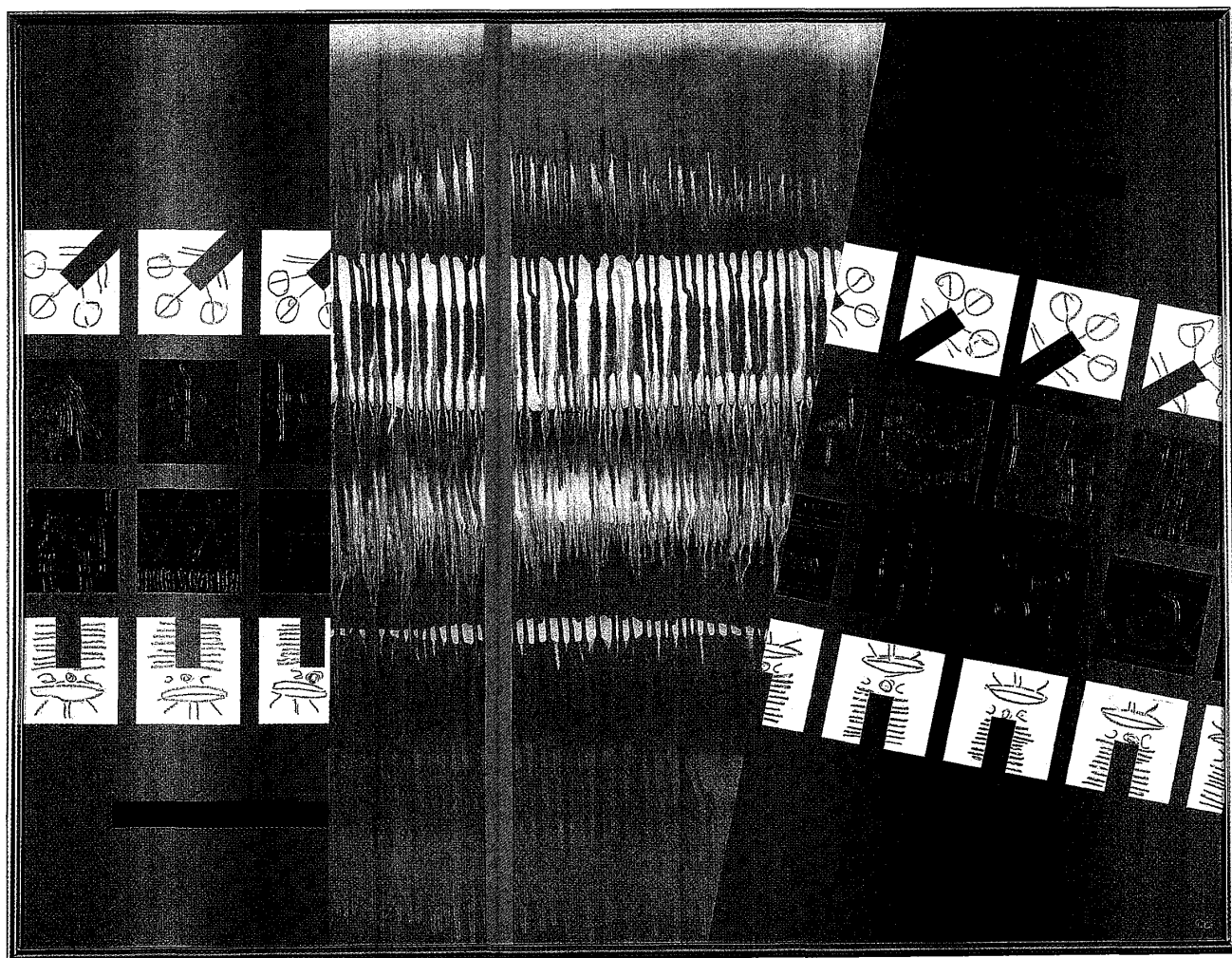
2006. 6. 19~6. 24 (札幌時計台ギャラリー)

## 宙シリーズ 06-3

“Cyuu” Series, 06-3

野 崎 嘉 男

NOZAKI, Yoshio



90.9cm×116.7cm

制作 2006, 5

第36回グルッペ・ゼーエン展

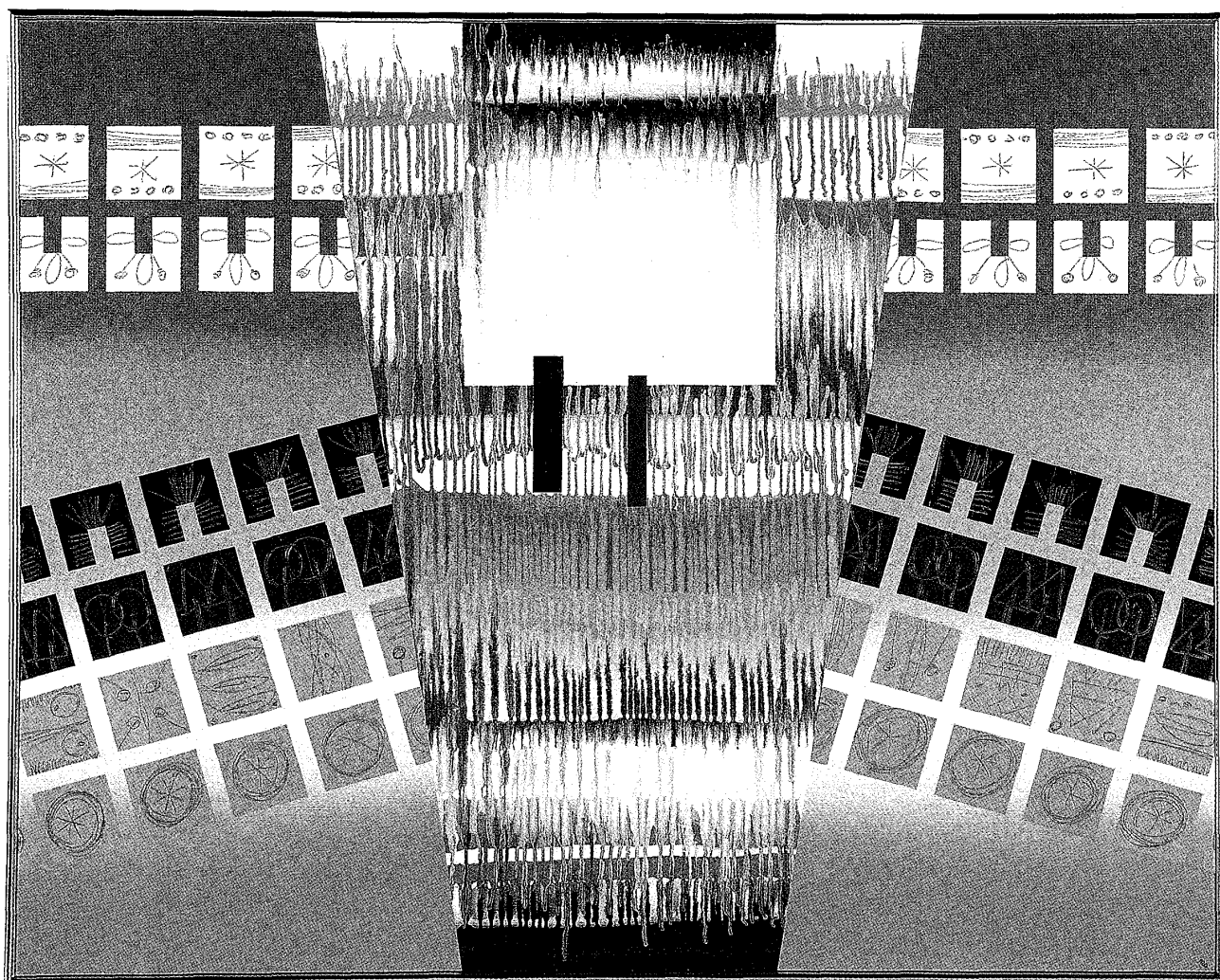
2006. 6. 19~6. 24 (札幌時計台ギャラリー)

## 宙シリーズ 05-15

“Cyuu” Series, 05-15

野 崎 嘉 男

NOZAKI, Yoshio



130.6cm×162.0cm

制作 2005, 9

80周年記念2005道展

2005. 10. 20～11. 6 (札幌市民ギャラリー)

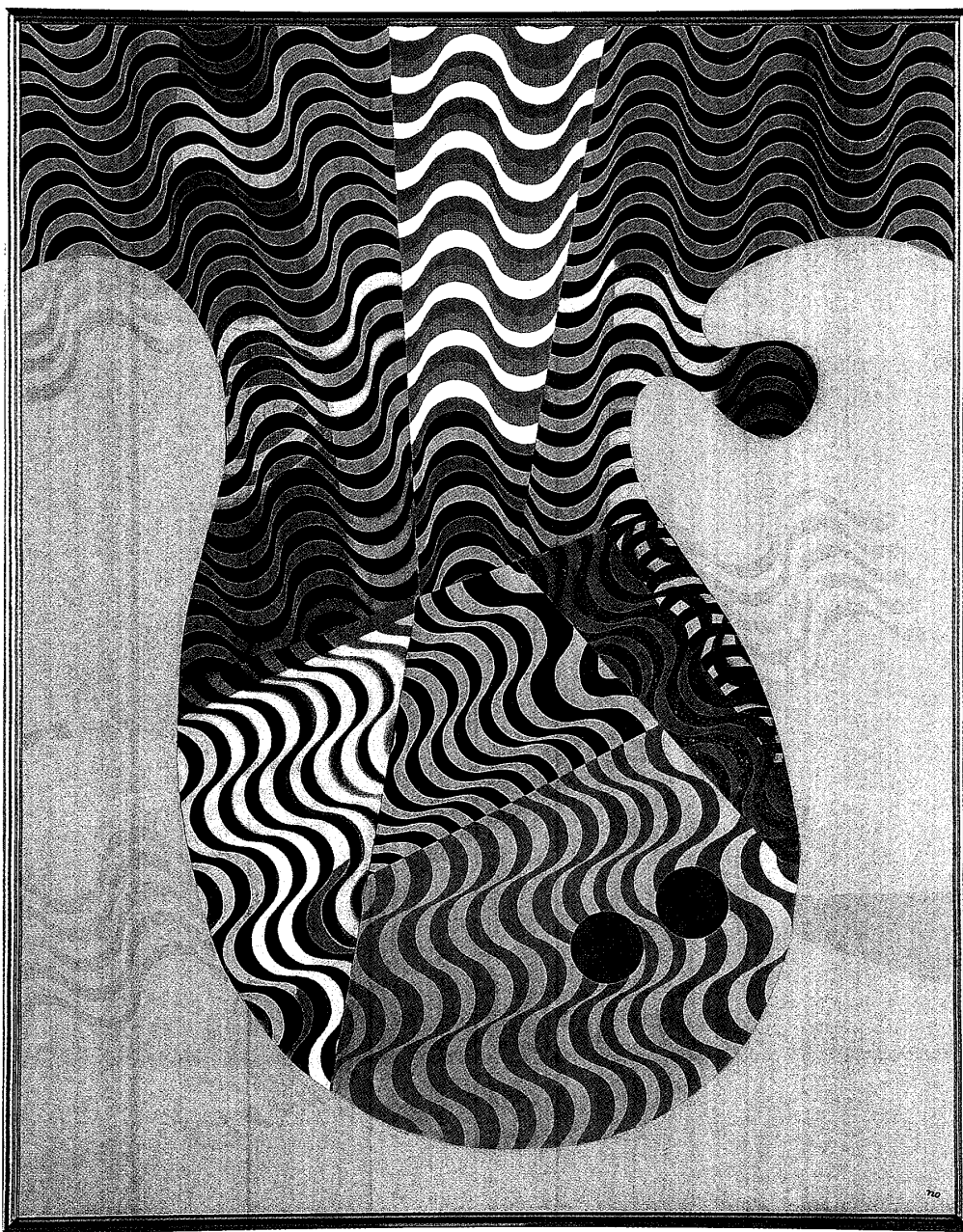


## のどちんこ

Nodochinko

野 崎 嘉 男

NOZAKI, Yoshio



90.9cm×72.7cm

制作 1978

第48回道展

1978. 11. 28～27 (札幌今井デパート)

道展80周年記念展—道展会員・会友／南九州作家交流展

2005. 11. 23～12. 4 (北海道立近代美術館)